

スポーツフィールド (TYO: 7080)

2023年12月期第1四半期（2023年1-3月期）は順調なスタート

サマリー

会社概要

◇**株式会社スポーツフィールド**（以下、同社）はスポーツ人財に就職関連サービスを全国規模で提供している。東証グロース市場に上場。同社の2022年12月期実績は売上高28.7億円、経常利益6.3億円だった。現在の中期経計画によれば、同社は2024年12月期に売上高36.0億円、経常利益7.7億円を目指す。

◇**スポーツ人財に特化、特色ある営業スタイルで市場をリード**：同社の現在の主要事業は新卒のスポーツ人財、特に体育会学生に関わる就職関連サービスである。市場規模は学年あたり全国で5万人程度と推計されるが、同社はスポーツ経験者を中心とした営業社員にアナログなサポートを行う体制を構築、就職希望登録者が年々2万人程度の規模になってきた。スポーツ人財の求人希望する企業の開拓も定着しており、特定した市場でリーディングポジションを確保しつつあるとみられる。

◇**現在の主要事業**：売上高の構成（2022年12月期）は体育会新卒者向けイベント39%（出展企業から出展料を受領）、体育会およびスポーツ経験者に関する新卒人財紹介事業30%（学生に就職カウンセリングを行い、就職先企業を紹介、内定承諾後に採用企業から採用コンサルティング料を受領）、既卒者向け人財紹介事業（既卒スポーツ人財に対する就職カウンセリングを行い、就職先企業を紹介、成果報酬として企業より人財紹介料を受領）からなる。

2023年12月期第1四半期アップデート

◇**第1四半期決算は高成長を確認する内容**：2023年12月期第1四半期は前年度から続く業績拡大基調が継続することを確認する内容だった。売上高は9.2億円（前年同期比+19%）、営業利益は3.2億円（同+36%）、経常利益3.1億円（同+36%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2.1億円（同+38%）となり、力強いトップラインの成長と売上高利益率の改善を実現している。会社通期予想と比較しても順調な進捗である。

◇**成長性を再評価続ける株価**：同社の株価は2022年5月以降業績の回復期待から反転を始め、その後現在まで業績の進捗に呼応して上昇基調にある。2023年12月期会社予想EPSに対して足もと株価は12.3倍、PBRは7.0倍であり、業績がさらに拡大すれば株価が素直に上昇する局面にあるとみられる。

◇今後の注目点：

第一に、会社通期予想に対する上振れ余地ないし上方修正の有無。採用市場の環境は同社に追い風にあると見られる。第2四半期以降予定される人員増強などの費用増加を加味しても、引き続き業績進捗が好調を続けるのか。

第二に、来年度の業績の基礎となる2025年3月卒の体育会学生のスポナビ登録者数の積み上がり方。

第三に、スポーツ経験学生の就職支援であるスポチャレ、既卒者向け人財紹介事業、スポーツ関連企業に特化した求人サイトであるスポジョバなどの収益化が前進し、新たな中期的な業績牽引役を担い始めるか。

1Q決算アップデート

サービス

2023年6月13日

株価(6/12)	1,510円
52週高値/安値	1,690/458.50円
1日出来高(3ヶ月)	38千株
時価総額	54億円
企業価値	47億円
PER(23/12会社予想)	12.4倍
PBR(22/12実)	7.0倍
予想配当利回り(23/12)	0%
ROE(22/12期)	71.8%
営業利益率(22/12期)	22.1%
ベータ(5年間)	N/A
発行済株式数	3.6百万株
上場市場	東証グロース

株価パフォーマンス



%	1月	3月	12月
株価	2	23	172
相対株価	0	13	138

注目点

体育会学生およびスポーツ経験学生の就職支援事業の深掘り、多角化事業の展開、高い営業利益率と高いROEの維持・向上、株主還元の時機、グロース市場からの上場市場変更、株式流動性の改善とオーナー等保有株式の売却

当レポート(Company note)は、スポーツフィールドの依頼を受けて作成しております。詳しくは、最終ページのディスクレームを参照ください。



目次

サマリー	1
主要財務データ	2
2023年12月期第1四半期決算	3
株価動向	7
今後の注目点	8
業績推移	9
参考情報	11

主要財務データ

決算年月		2017年12月	2018年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月
売上高	千円	1,106,727	1,516,370	1,917,813	1,883,269	2,130,256	2,866,214
経常利益	千円	60,171	113,916	192,045	32,016	△35,298	634,239
当期純利益	千円	41,031	72,809	132,965	17,055	△79,133	412,318
資本金	千円	10,300	10,300	92,680	92,712	92,869	93,079
発行済 株式総数	普通株式 A種株式 株	20,000 400	20,400 -	881,600 -	882,560 -	897,400 -	1,808,080 -
純資産額	千円	59,396	132,205	429,932	446,826	368,007	780,524
総資産額	千円	418,961	735,377	1,106,275	1,488,182	1,540,544	2,127,327
1株当たり純資産額*1	円	18.20	40.50	121.92	126.58	102.53	215.87
1株当たり当期純利益*1	円	12.57	22.31	40.68	4.83	△22.21	114.44
自己資本比率	%	14.2	18.0	38.9	30.0	23.9	36.7
自己資本利益率	%	100.6	76.0	47.3	3.9	△19.4	71.8
営業キャッシュフロー	千円	108,208	82,994	198,181	△88,974	53,789	609,537
投資キャッシュフロー	千円	△32,962	△75,085	△24,984	△32,077	△67,943	△7,100
財務キャッシュフロー	千円	△82,366	191,526	149,891	396,399	18,139	△120,077
現金及び現金同等物の期末残高	千円	163,792	363,227	686,315	961,663	965,648	1,448,007
従業員数	名	118	164	201	233	266	242

*1：2019年10月4日付で普通株式1株につき40株、2022年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2017年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算出しております。

出所：同社資料よりOmega Investment 作成



2023年12月期第1四半期決算動向

株式会社スポーツフィールド（以下、同社）は、2023年5月12日引け後、2023年12月期第1四半期（1-3月期）の決算を発表した。順調な滑り出しとなり、通期計画に対する進捗も前年同期より良好で、今後の業績の一層の伸長を期待させる内容だった。

過去最高を更新した好調な決算

売上高は9.2億円（前年同期比+19%増）、営業利益は3.2億円（同+36%増）、経常利益は3.1億円（同+36%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2.1億円（同+38%増）となった。売上高・営業利益・経常利益は第1四半期の過去最高を更新し、親会社株主に帰属する四半期純利益の過去最高である。約2割の増収を実現し、さらに営業利益率等が拡大しており、極めて良好な決算である。

この好調の要因を端的に言えば、アフターコロナに入り求人需要が回復し、それに対して同社が経費の増加を抑制しながら着実に売上高に結実させたことにある。

2023年12月期 第1四半期決算概要

(百万円)	第1四半期		前年同期比	
	2023年12月期	2022年12月期	増減額	増減率
売上高	919	774	+144	+18.7%
新卒者向けイベント	578	507	+71	+14.0%
新卒者向け人財紹介	92	79	+13	+16.6%
既卒者向け人財紹介	213	158	+54	+34.5%
その他売上	34	28	+5	+19.9%
営業利益	315	232	+82	+35.5%
営業利益率	34.3%	30.1%		+4.3PP
経常利益	314	231	+83	+36.0%
経常利益率	34.3%	29.9%		+4.4PP
親会社株主帰属当期純利益	205	148	+56	38.3%

- 売上高は、主要3事業すべてにおいて過去最高売上高となった
- 営業利益、経常利益ともに過去最高となり、営業利益率、経常利益率についても前年実績を大幅に上回り、過去最高を記録

出所：同社IR資料より

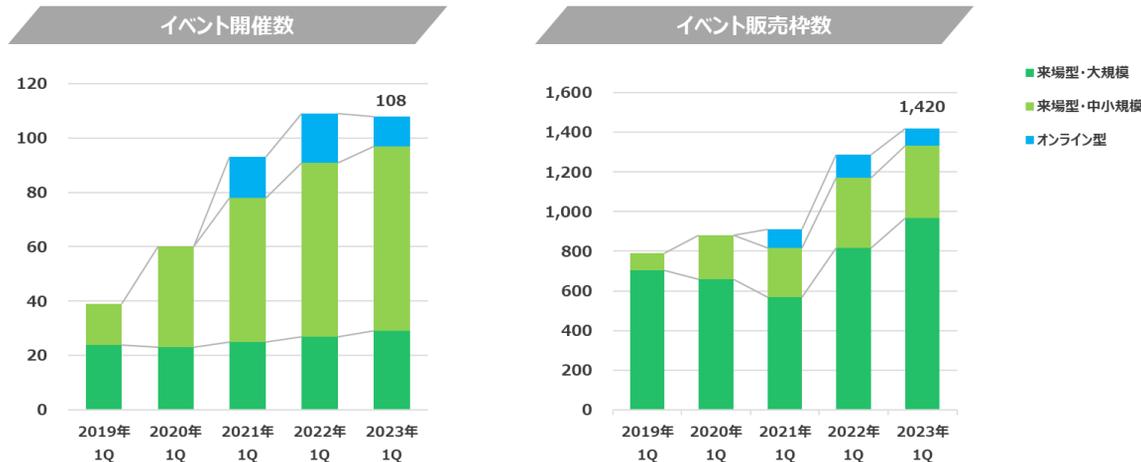
部門別に見ると、新卒者向けイベント、新卒者向け人財紹介、既卒者向け人財紹介からなる主力三事業が満遍なく増収した。



2023年12月期第1四半期決算動向

新卒者向けイベント事業

イベント開催数自体は前年同期並みにとどまったものの、オンラインイベントから来場型・大規模イベントへのシフトが進み、これが受注・売上高を牽引した。2024年3月卒向けイベントに対する企業の出展ニーズは強く、受注進捗は2023年3月卒向けを上回って推移しているとのことで、おもに本年度の第2から第3四半期の売上高として計上されることになる。



2019年実績：2020年卒・2021年卒向け | 2020年実績：2021年卒・2022年卒向け | 2021年実績：2022年卒・2023年卒向け
 2022年実績：2023年卒・2024年卒向け | 2023年実績：2024年卒・2025年卒向け
 スポナビのみ、スポチャレのイベントは含まず

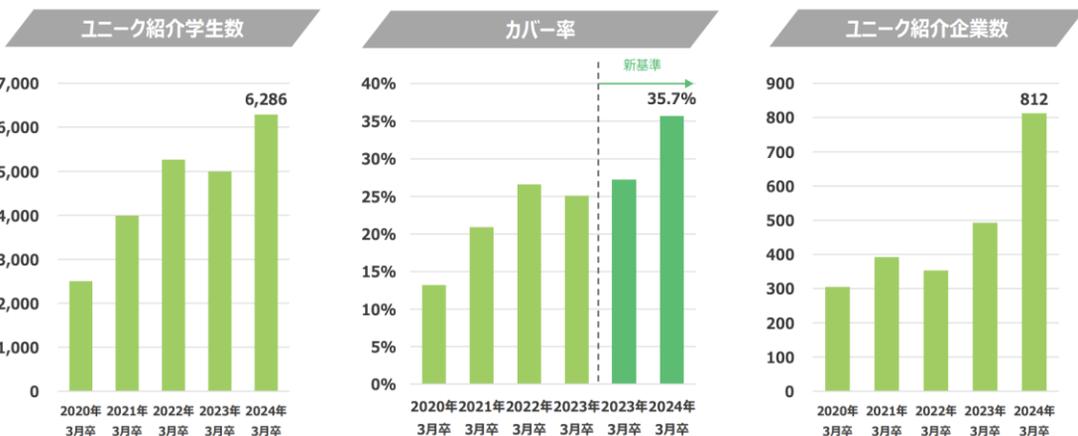


出所：同社IR資料より

新卒者向け人財紹介事業

体育会学生の登録者数を示すスポナビ登録者数は、2024年3月卒生に関して2023年3月末時点で17,631人となり、2023年3月卒生の2022年3月末時点の登録者数から減少した。これは2022年12月期に従業員がやや減少したことが響いたものと推察される。

しかし、就職活動の早期化に対応して登録者に対するサポートを進めカバー率を引き上げることができたこと、企業からの新卒採用ニーズの取り込みが順調なことから、ユニーク紹介学生数、ユニーク紹介企業数ともに大幅に伸びており、当四半期の売上高もしっかりした数値になっている。



*KPI 第1四半期（卒業前年3月末）時点実績 スポナビのみ（スポチャレは含まない）
 *ユニーク紹介学生数：企業に紹介した重複しない学生数 | ユニーク紹介企業数：学生に紹介した重複しない企業数
 *カバー率：登録者の内、面談対応により、アナログな関係が構築できている登録者の比率（算出方法：ユニーク紹介学生数/スポナビ登録者数）
 *スポナビ登録者数の定義を、スポナビ2024全登録者数から、2023年12月期において企業への紹介対象となる2024年度卒学生のみ登録人数に変更



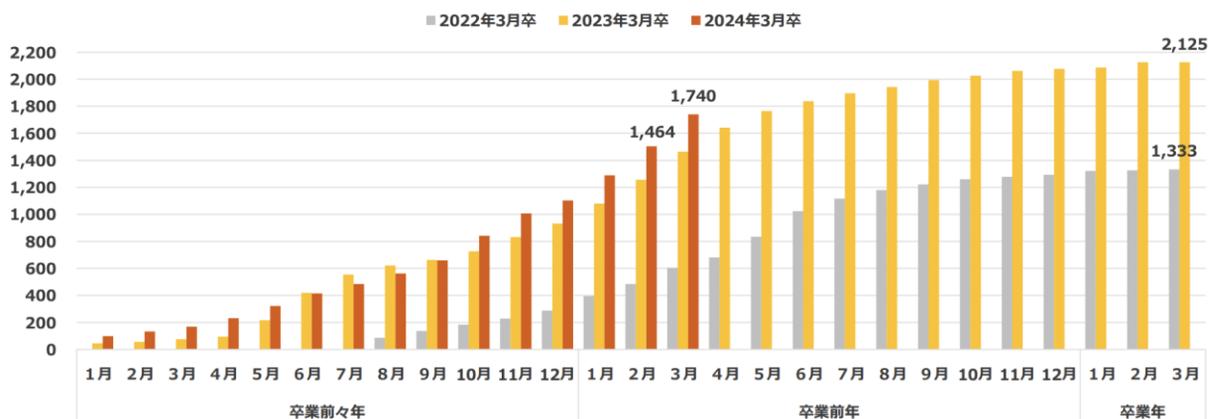
出所：同社IR資料より



2023年12月期第1四半期決算動向

さらに、スポーツ経験者に対する就職支援サービスであるスポチャレにおいて、登録者数、ユニーク紹介学生数が大幅に伸び、その売上高は前年同期比+89%増加し27百万円となった。新卒者向け人財紹介事業の新たな牽引役の座を担いつつある。

スポチャレ累計登録者数推移



出所：同社IR資料より

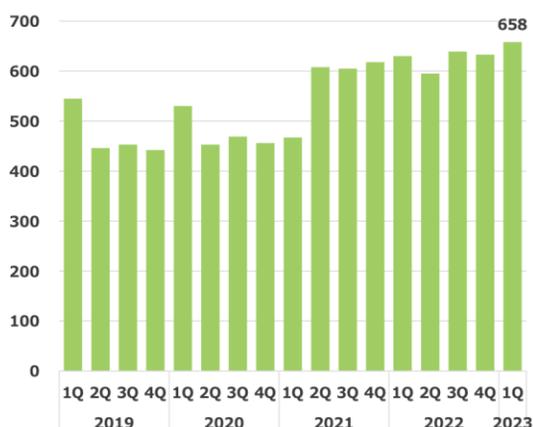


既卒者向け人財紹介事業

企業の好調な採用需要を背景に、スポナビキャリア・スポチャレ転職の登録者が前年同期を上回り、ユニーク紹介人財数、ユニーク紹介企業数も伸び、この結果高い増収率を達成している。

なお、新規事業のひとつであるスポジョバ（スポーツ関連企業に特化した求人サイトでオンラインで完結するマッチングが主）の累計登録会員数とサイトPV数も上昇し、既卒者向け人財紹介事業の売上高への寄与度が当四半期は約15%になっている。

ユニーク紹介人財数



ユニーク紹介企業数



*ユニーク紹介人財数：企業に紹介した重複しない人財数 | ユニーク紹介企業数：求職者に紹介した重複しない企業数



出所：同社IR資料より



2023年12月期第1四半期決算動向

通期予想に対する進捗率

第1四半期の業績は通期予想に対して高い進捗率になった。

売上高は28.9%（前年同期27.0%）、営業利益は46.4%（同36.6%）、経常利益は46.5%（同36.5%）となっている。会社計画に対するここまでの進捗が上振れているのか明示はないが下振れしている可能性は低いと見られる。

通期業績予想対比進捗率

(百万円)	2023年12月期			2022年12月期		
	通期業績予想	第1四半期実績	進捗率	通期実績	第1四半期実績	進捗率
売上高	3,186	919	28.9%	2,866	774	27.0%
新卒者向けイベント	1,246	578	46.4%	1,129	507	45.0%
新卒者向け人材紹介	977	92	9.5%	844	79	9.4%
既卒者向け人材紹介	825	213	25.9%	777	158	20.4%
その他売上	136	34	25.0%	115	28	24.6%
営業利益	680	315	46.4%	637	232	36.6%
営業利益率	21.3%	34.3%	-	22.2%	30.1%	-
経常利益	677	314	46.5%	634	231	36.5%
経常利益率	21.3%	34.3%	-	22.1%	29.9%	-

出所：同社IR資料より

健全なバランスシート

2022年12月期末から現預金が減少したものの引き続きその残高は高水準を維持している。有利子負債は現預金減少に概ね見合って減少しており、ネット・キャッシュ・ポジションを維持している。

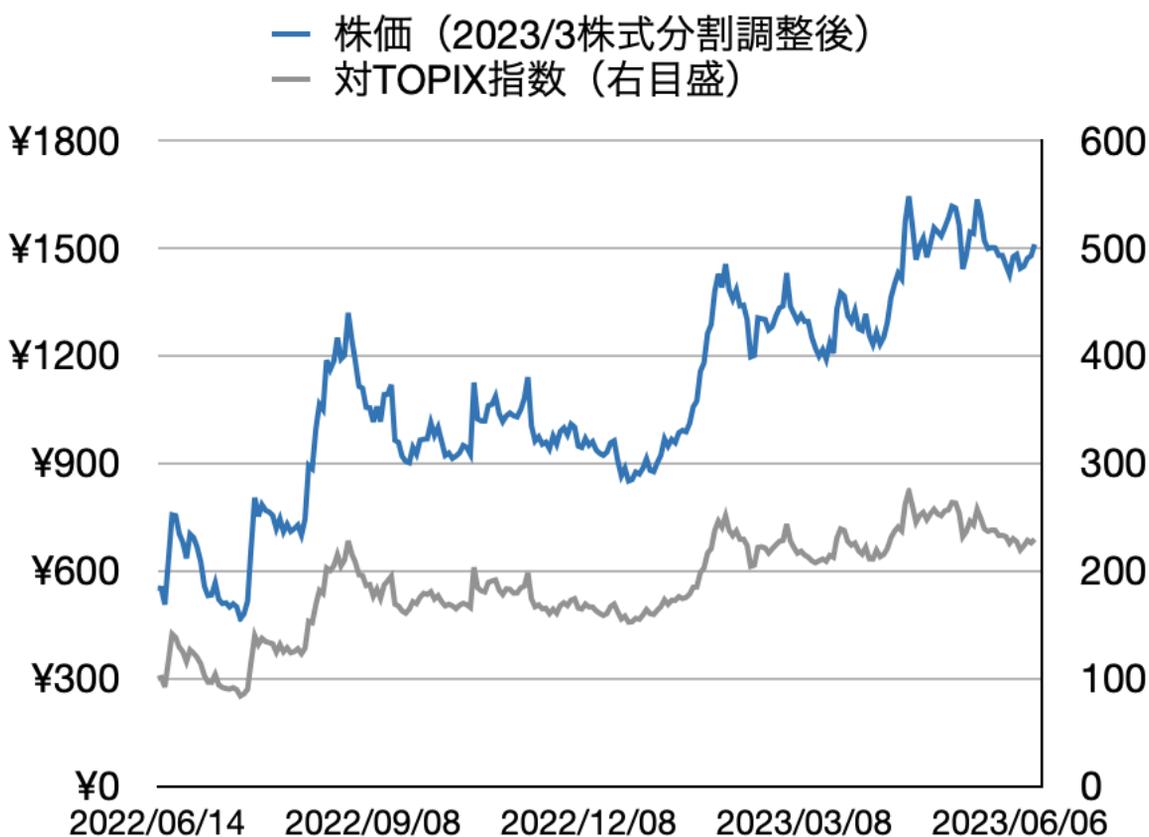


株価動向

同社の株価は2022年5月以降業績の回復期待から反転を始め、その後現在まで業績の進捗に呼応して上昇基調にある。

ただし、当第1四半期発表後の株価は総じて言えば横ばいで推移している。これは過去1年間にわたり、業績の底入れ、急回復、中期計画の上方修正を受けて株価が急騰したため、直近の四半期決算が好調でも反応が鈍かったと解釈することが自然だと思われる。また、前述の通り、2024年3月卒生スポナビ登録者数の伸び悩みも嫌気された可能性もある。

バリュエーション面を見ると、2023年12月期会社予想EPSに対して足もと株価は12.3倍、PBRは7.0倍である。高ROEであることを加味すると過熱感は乏しいと考えられ、株価は業績の拡大が続くにつれて評価を高める余地が大きいと思われる。





今後の注目点

当面の注目点を3点挙げたい。

第一に、会社通期予想に対する上振れ余地ないし上方修正の有無。

現在、採用市場の環境は同社に追い風にあると見られる。第2四半期以降は人員増強が予定されているうえ、新規事業の育成のために積極的な経費投下も想定されうるものの、業績の拡大が順調に進み通期予想に対する進捗が高水準を保つ可能性も高いと見られる。会社予想に対する上振れ余地、ないし上昇修正の可能性に株式市場の関心が高まりそうだ。

言うまでもなく、採用市場が逆風になる可能性にも常に留意すべきである。

第二に、来年度の業績の基礎となる2025年3月卒の体育会学生のスポナビ登録者数の積み上がり方。

同社の現在の主たる収益源である新卒者向けイベント事業、新卒者向け人財紹介事業の基盤はスポナビ登録者数であるが、既に指摘した通り、2024年3月卒学生の登録者数は2023年3月期卒学生の比較すべき登録者数よりもやや減少した。

2025年3月期卒学生の登録者数の積み上がりは、来年度の業績を占うカギとなるKPIであり、株価にも影響が大きいと考えられる。会社資料によれば、現在この数値は2024年3月卒の比較すべき数値を上回って推移しているとのことであるが、このような改善傾向を定着させるかが注目される。

第三に、スポーツ経験学生の就職支援であるスポチャレ、既卒者向け人財紹介事業、スポーツ関連企業に特化した求人サイトであるスポジョバなどの収益化が前進し、新たな中期的な業績牽引役を担い始めるか。

業績推移

通期業績推移

(百万円)

決算期	2019/12期	2020/12期	2021/12期	2022/12期	2023/12期	2024/12期
連結・日本基準	(上場)				会社予想	中期経営計画 (修正後)
【損益計算書】						
売上高	1,918	1,883	2,130	2,866	3,186	3,600
営業利益	194	16	-32	637	680	768
経常利益	192	32	-35	634	677	767
税金等調整前当期純利益	192	32	-81	634		
親会社株主に帰属する純利益	133	17	-79	412	440	
【貸借対照表】						
資産合計	1,106	1,488	1,541	2,127		
負債合計	676	1,041	1,173	1,347		
純資産合計	430	447	368	781		
借入金合計	334	731	749	630		
【キャッシュ・フロー計算書】						
営業活動によるキャッシュ・フロー	198	-89	54	610		
投資活動によるキャッシュ・フロー	-25	-32	-68	-7		
財務活動によるキャッシュ・フロー	150	396	18	-120		
フリーキャッシュフロー	173	-121	-14	602		
現金及び現金同等物の期末残高	686	962	966	1,448		
【経営効率】						
売上高経常利益率	10.0%	1.7%	-1.7%	22.1%	21.2%	21.3%
ROA	14.4%	1.3%	-5.2%	22.5%		
ROE	47.3%	3.9%	-19.4%	71.8%		
【一株指標】 単位：円						
EPS (株式分割等調整後)	41	5	-22	114	122	
BPS (株式分割等調整後)	122	127	103	216		
DPS (株式分割等調整後)	0	0	0	0	0	
【従業員数】						
連結従業員数	201	233	266	242		

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成

一株あたり指標であるEPS、BPSは2023年4月に実施された1：2の株式分割の効果を遡及して計算。

業績推移

四半期業績推移

(百万円)

	2022Q1	2022Q2	2022Q3	2022Q4	2023Q1
売上高	774	862	609	619	919
新卒者向けイベント売上高	507	267	61	292	578
新卒者向け人財紹介売上高	79	290	354	119	92
既卒者向け人財紹介売上高	158	277	164	176	213
その他	28	26	29	31	34
営業利益	232	301	69	32	315
経常利益	231	301	68	31	314
親会社株主に帰属する純利益	148	196	45	23	205

出所：同社IR資料よりOmega Investment作成

一株あたり指標であるEPS、BPSは2023年4月に実施された1：2の株式分割の効果を遡及して計算。



会社概要

社名	株式会社スポーツフィールド			
代表者	代表取締役 篠崎 克志			
設立年月日	2010年1月			
本社所在地	東京都新宿区市谷本村町3-29FORECAST市ヶ谷4F			
資本金	93,079千円（2022年12月末現在）			
役員構成	代表取締役	篠崎克志	取締役(社外)	小林明彦
	取締役副社長	伊地知和義	取締役(社外)	河村直人
	専務取締役	加地正	常勤監査役(社外)	大隅靖朗
	専務取締役	森本翔太	監査役(社外)	山本憲司
			監査役(社外)	田島潤一郎
事業内容	新卒事業部門：イベント事業、人財紹介事業 中途事業部門：人財紹介事業			
売上規模	2,866,214（千円）〔2022年12月期〕			
従業員数	242名（連結：2022年12月末現在）			
拠点	東京本社、札幌オフィス、仙台オフィス、千葉オフィス、横浜オフィス、東海オフィス、京都オフィス、大阪オフィス、神戸オフィス、岡山オフィス、広島オフィス、九州オフィスの12拠点 + 7サテライトオフィス			
総資産	2,127,327（千円）〔2022年12月末〕			



主要株主の状況

氏名又は名称	所有株式数	発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合（%）
篠崎 克志	409,000	22.62
伊地知 和義	209,600	11.59
加地 正	209,600	11.59
森本 翔太	209,600	11.59
楽天証券株式会社	27,400	1.51
スポーツフィールド従業員持株会	25,200	1.39
野村證券株式会社	19,700	1.08
重森 豊太郎	16,800	0.92
NOMURA PB NOMIN EES（常任代理人：野村證券株式会社）	16,200	0.89
医療法人ヒポクラテス竹村内科腎クリニック	16,000	0.88
竹村 克己	16,000	0.88
計	1,175,100	64.99

株主構成

2022年12月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							計	単元未満株式の状況（株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	2	22	14	12	2	971	1,023	—
所有株式数（単元）	—	118	1,313	253	535	2	15,840	18,061	1,980
所有株式数の割合（%）	—	0.65	7.26	1.40	2.96	0.01	87.70	100.00	—

（注）自己株式196株は、「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に96株含まれております。



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したのですが、その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの調査によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。